

「六本木アートカレッジ スペシャル1DAY」イベント 遠山正道氏の企画・監修で3月21日(木・祝)開催

竹中平蔵、南條史生、中野信子、舘鼻則孝、栗コーダカルテット他、総勢20名以上が登壇！

森ビル株式会社が運営する「アカデミーヒルズ」(理事長 竹中平蔵)は、1日4,000円で10のトークセッションから選択受講できる「六本木アートカレッジ スペシャル1DAY」を、3月21日(木・祝)に開催します。

「六本木アートカレッジ」は、社会人を対象にプログラムを提供する「アカデミーヒルズ」が、「自分にとっての『アート』とは何か？」を考える機会を提供するイベントシリーズです。今期は「Soup Stock Tokyo」「giraffe」などを展開する遠山正道氏(株式会社スマイルズ 代表取締役社長)をシリーズディレクターに迎え、<自分と、アートと、ビジネスと。>をテーマにセミナー、イベントを開催しています。

その「六本木アートカレッジ」の特別拡大イベントとして、年に1度だけ開催する「六本木アートカレッジ スペシャル1DAY」は、今回8回目を迎えます。毎回約600名の受講者を集め、新しい刺激に出会い、興味を広げることで自分らしい感性を磨ききっかけを提供します。

六本木アートカレッジ スペシャル1DAY <自分と、アートと、ビジネスと。>

不確実な時代に意思決定をするためには、効率や経済性だけで測ることができない、自分なりの美学(価値感)をもつことが重要です。本イベントでは、自分なりのこだわりを持つ人を招き、これからの時代に必要な「美学」とは何かを考えます。

【2018-2019 シリーズディレクター】

遠山正道(株式会社スマイルズ 代表取締役社長)

「Soup Stock Tokyo」のほか、「giraffe」、「PASS THE BATON」、「100本のスプーン」を展開。「生活価値の拡充」を企業理念に掲げ、既成概念や業界の枠にとらわれず、現代の新しい生活の在り方を提案している、現代アートのコレクターでもある遠山氏が、アートとビジネスの双方が補完し合い、次のシーンを切り拓くことの重要性を伝えるべく、本イベント企画・監修を務める。

【開催概要】

- 開催日 : 2019年3月21日(木・祝)
- 時間 : 12:00~17:00
(交流会 17:20~18:20)
- 場所 : アカデミーヒルズ
(六本木ヒルズ 森タワー49階)
- 参加費 : 4,000円 (交流会付 5,500円)
- 入場者 : 定員 600名
- 申込 : Web サイトにて参加申込
<http://art.academyhills.com/oneday2018.php>
- 主催 : アカデミーヒルズ
- 協力 : 森美術館/HILLS LIFE DAILY



◇本件に関する報道関係者の方のお問合せ先◇

森ビル株式会社アカデミーヒルズ事業部スクール事務局 担当:小林、中村
Tel 03-6406-6200 Fax 03-6406-9350 E-mail: school@academyhills.com

「六本木アートカレッジ スペシャル 1DAY」講座

【オープニング】 12:00 - 13:00 ビジネスがアートに学ぶこと！

遠山正道(株式会社スマイルズ代表取締役)

竹中平蔵(アカデミーヒルズ理事長／東洋大学教授／慶應義塾大学名誉教授)

遠山氏は、美術という権威とチェーン展開という経済の仕組みを使って、アートと経済の新しい関係を模索する「The Chain Museum」を展開中。経済学者の竹中先生と「アートと経済の新しい関係」を語ります。



【クロージング】 16:00 - 17:00 「アートのない世界」で人は生きられるのか？

中野信子(脳科学者)

長谷川祐子(東京都現代美術館参事／東京藝術大学院教授)

遠山正道(株式会社スマイルズ代表取締役)

人は何万年も前から、目の前にないものを想像して物を作り、絵を描き、そうしてアートと共に生きてきました。もしアートが存在しない世界だとしたら？人とアートの関係を考えます。



13:20 - 14:20 アートとしての建築、機能としての建築

南條史生(森美術館館長)

石上純也(建築家)

建築が他のアートと異なるのは、そこに機能を求められること。アートと機能の境界は？世界各国でプロジェクトを展開する建築家石上氏を迎え、森美術館館長の南條史生氏と共に考えます。



14:40 - 15:40 アートとしてのファッション、ビジネスとしてのファッション

廣川玉枝(デザイナー)

舘鼻則孝(アーティスト)

軍地彩弓(編集者/ファッション・クリエイティブ・ディレクター)

ファッションデザイナーであり海外の著名な美術館に作品が収蔵されているアーティストでもある廣川氏と舘鼻氏、そして、編集者である軍地氏がこれからのファッションのあり方を論じます。



13:20 - 14:20 AIディナーはどんな味？

松嶋啓介(株式会社ACCELAIRE代表取締役 シェフ)

石川善樹(予防医学研究者 / 株式会社us for H共同創業者)

「AIと人が一緒にレシピを考えると、どんな料理になるの？」これを実現したのが「AIディナー」。AIと人がコラボレーションすると何が起きるのか？主宰者の二人が議論します。



14:40 - 15:40 医療×アートの次

武部貴則(東京医科歯科大学 統合研究機構 臓器発生・創生ユニット教授等)

病院での待ち時間が楽しくなる「こころまちプロジェクト」等、アートの視点を入れて新たな医学手法を創造する広告医学を推進している武部先生。医療におけるイノベーションの可能性とは？



13:20 - 14:20 見失ったアートを取り戻す

津田大介(ジャーナリスト/メディア・アクティビスト)

アートがいま迎える新たな局面とは？今年 8 月から開催する「あいちトリエンナーレ 2019」。芸術監督に異例のジャーナリストである津田大介氏が就任したことも大きな話題になりました。「アートと社会のいま」を考えます。



13:20 - 14:20 “好き”が全ての原動力に！～ユーチューバー型アーティスト～

大野萌菜美(ダンボールアーティスト)

SNS で作品を紹介する「ユーチューバー型アーティスト」の大野萌菜美さん。作品の評価は「いいね数」。でも一番の原動力は「好き」という気持ち。自分とアートとビジネスの関係を披露します。



13:20 - 15:20 音楽から生まれるもの、そして未来へ

栗コーダーカルテット:栗原正己、川口義之、関島岳郎(作編曲家/演奏家)

NHK E テレ「ピタゴラスイッチ」でもおなじみ、一度聴いたら忘れられない栗コーダーカルテット。結成 25 年を迎える今、音楽への思い、こだわり、そしてこれからを語り合います。



14:40 - 15:40 会社としてのアーティスト・コレクティブ

目:南川憲二、荒神明香、増井宏文(現代芸術活動チーム)
徳山拓一(森美術館アソシエイト・キュレーター)

現代アートの表現が変化するなかで、アーティストは社会の何に反応し、コンセプトを描き、どのように実現させているのか。その活動がいかにより新たな「会社」のあり方の可能性を提示しているか語り合います。



「六本木アートカレッジ」とは



竹中平蔵
アカデミーヒルズ理事長

テクノロジーの進化により社会の仕組みが大きく変わろうとしています。その変化の中で、個人が力を持ち、個人が表舞台に立つパーソナルな時代がやってきました。パーソナルな時代に必要なことは、「自分の評価軸」、「自分の価値基準」を明確にすること、個人で判断し選択する力です。

「自分軸」を探するためには、効率や経済性以外の別の価値基準を提供する可能性を秘めているアートに関心を持つことが重要になってくるでしょう。また、アートは「ソフト・パワー」として、社会の価値や仕組みを変える大きな力へ発展もします。アートを提供する側(アーティストや企業など供給サイド)だけではなく、それに価値を見出す力を持つ個人(需要サイド)の存在も必須です。アートに触れ、アートの視点を持つことにより自分の軸を創り、自分らしく生きる個人を育む、それが「六本木アートカレッジ」の目的です。

【アカデミーヒルズ <http://www.academyhills.com>】

森ビルは、「都市を創り、都市を育む」をテーマに、ハードとソフトの両面から都市づくりに取り組んでいます。「都市を育む」取り組みの一つとして、森ビルが運営するアカデミーヒルズは「自律的に自立する個人の支援」をミッションに、社会人に向けた「スクール事業」、会員制図書館を運営する「ライブラリー事業」、貸しホール・貸会議室を運営する「フォーラム事業」の3つの機能を軸に、都市生活者に対して「知的活動の場」と「教育の機会」を提供しております。

遠山正道氏によるテーマ監修によるセミナーを、2018年度に3回実施しています。

Vol.1 つながるアートとビジネス～“美学”は共感を生む～



開催日：2018年6月15日(金)
 登壇者：南條史生(森美術館館長)
 遠山正道(株式会社スマイルズ 代表取締役社長)

アートとビジネスの共通点を鋭く見つけ、そのふたつが互いに協力し合うことで生まれる新たな業態の可能性について議論を深めた。

http://art.academyhills.com/report_201801.php

Vol.2 ビジネスがアートから学ぶべきことは？



開催日：2018年12月5日(水)
 登壇者：山田孝之(俳優)
 楠木建(一橋大学大学院 経営管理研究科 教授)
 遠山正道(株式会社スマイルズ 代表取締役社長)

山田氏と遠山氏、2人の経営者の議論に、知見豊富な楠木氏が加わり、これからのビジネスに必要な価値観や美学について語りあった。

http://art.academyhills.com/report_201802.php

Vol.3 アートが責任あるプロジェクトになるために必要なことは？



開催日：2019年1月23日(水)
 登壇者：津田大介(ジャーナリスト/メディア・アクティビスト)
 荒神明香(現代芸術活動チーム「目」アーティスト)
 南川憲二(現代芸術活動チーム「目」ディレクター)
 遠山正道(株式会社スマイルズ 代表取締役社長)

ビジネスとアートの両面を俯瞰しながら、アートがサステナブルなプロジェクトになるために何が必要なのか、アートとビジネスが相互に補完し合うにはどうすればいいのかが語りあった。
 ※4月中旬 WEB 公開予定

【参考】「六本木アートカレッジ」開催状況

2011年からスタートした六本木アートカレッジは、過去に中田英寿氏、池上彰氏、篠山紀信氏、羽生善治氏など、多彩なゲストが登壇し、20代、30代のビジネスパーソンを中心に、多くの参加者の皆さまにお楽しみいただいています。

□1DAYイベントはこれまで7回開催。各回600～1000名を集客

□(参加者属性)20代、30代が約7割を占める

□(参加者属性)男性4割、女性6割

これまでの1DAY イベントゲスト(抜粋)

- ・伊勢谷友介
- ・中田英寿
- ・会田誠
- ・津田大介
- ・猪子寿之
- ・生駒芳子
- ・大宮エリー
- ・篠山紀信
- ・松井冬子
- ・横尾忠則
- ・柿沢安耶
- ・谷尻誠
- ・谷川俊太郎
- ・真鍋大渡
- ・水野学
- ・一青窈
- ・嶋浩一郎
- ・為末大
- ・いとうせいこう
- ・箭内道彦
- ・みうらじゅん
- ・栗林隆
- ・幅允孝
- ・鶴田真由
- ・丸山敬太
- ・石田衣良
- ・阿川佐和子
- ・長嶋りかこ
- ・名和晃平
- ・舘鼻則孝
- ・クラインダイサムアーキテクツ
- ・中村貞裕
- ・柳澤大輔
- ほか ※順不同 敬称略

